

一般質問

(質問者の文責により、質問と答弁の要旨を掲載)



秦野の財産と特色を生かした取り組みを

創秦クラブ 谷 和雄

一 秦野産材を生かしたシティプロモーションについて(その2)

問 県森林組合連合会の事務所が本市の葛浦地区に移転するが、経済効果はどうか。また、市内に木材の製材から乾燥までを一貫して行える生産施設はあるか。

答 木材加工施設などの進出が想定されるため、積極的に誘致を図り、経済振興につなげたい。また、市内で一貫して生産できる施設はなく、市外に頼る状況である。

要望 秦野産材を東京オリンピック・パラリンピック競技大会の会場施設にも活用できるように、市内で木材を一貫して生産できる施設の確保に取り組んでほしい。

二 地域公共交通の安定的な維持・確保について

問 上地区乗合自動車のダイヤ改正や停留所新設の概要はどうか。

答 ミニデイスタービスの利用や西中学校の始業時間に合わせてダイヤを改正し、通勤者向けに林業センター入口の停留所を新設した。



新ルートの開拓が望まれる(写真は「行け行けぼくらのかみちゃん号」)

問 安定的な運行をすることで収入増加につながるが、堀西・千村地区を通る新ルートの開拓も視野に入れてはどうか。

答 道路の幅員不足など、安全な走行環境が整っていないため、今後、解決に向け調整していく。

要望 新ルートの検討と併せて、道路の拡幅など交通安全対策も進めてほしい。また、上地区では運行継続を望む活動もあり、引き続き、安定的な運行に努めてほしい。

経営感覚を持った行政運営を

民 政 会 八尋 伸二

一 行政評価について

問 平成29年度の市税収入は28年度と比べ、2億円ほど減る厳しい状況下、将来に投資する人材育成は重要と考える。28年11月の行政調査会の報告で「戦略的な人材育成」をすべきとの行政評価報告がなされたが、具体的にどのような人材育成方法を考えているのか。

答 努力した職員に一層報いる新たな人事評価制度の構築を進め、職員(ひと)づくり基本方針や実施計画に基づき、さまざまな

二 ネーミングライツ導入の進捗状況について

問 平成27年第2回定例会で、公共施設利用料金の適正化に伴い、ネーミングライツの導入について質問を行った際、前向きな回答であったが、進捗状況はどのようか。

答 カルチャーパークという名称自体が定着しない中で、ネーミングライツを実施すると市民や利用者も混乱するため、まずは「秦野市カルチャーパーク」という名称



福祉的観点から市営住宅の募集を

民 政 会 和田 厚行

一 市営住宅の入居促進について

問 市営住宅は、福祉施策として整備したものであるが、現在、60戸から70戸が空いていると聞いている。今後、どのような計画で募集していくのか。

答 本市の市営住宅は老朽化しているものが多く、平成23年度から10年間の計画で、老朽化木造戸建市営住宅集約事業を実施し、現在の空き状況は63戸となっている。

現在、中高層の市営住宅で生じている入居者の高齢化によるコミュニティ機能衰退の解消と、子育て世帯などの入居機会の拡大を図るため、期限付き入居制を導入する市営住宅条例の一部改正案を今定例会に提出した。今後、障がい者向け住宅を含めて、29年6月頃には入居募集を行いたい。

要望 高齢者のために市営住宅にエレベーター設置をお願いしたい。

二 交通渋滞解消について

問 テクノパーク入口交差点において、東西方向は右折レーンと右折矢印信号機の設置が、南北方向にはない。交通渋滞緩和のため、設置の検討はどのようか。

答 設置可否の最終判断は公安委員会となることから、交差点の右折矢印信号機の設置は、秦野警察署から上申を行う予定である。4方向に右折矢印信号機を設置することで、渋滞緩和と安全対策の強化が図られることから、道路管理者(県・市)や交通管理者(警察)と協議を進めていく。



ネーミングライツを導入し、税外収入の確保を(写真はカルチャーパーク野球場)

を市民に広く浸透させることを考えている。しかし、施設の維持管理や運営にかかる経費を確保する観点で有効な手段であり、導入に向け具体的な検討を進めていく。

要望 今後も厳しい財政状況となることから、行政は経営感覚を持つこと、ネーミングライツ導入やパークゴルフ場開設などの税外収入を得る事業も検討すべきである。



住宅確保要配慮者の住みよい環境づくりの構築を

緑水クラブ 横溝 泰世

一 公営住宅法(市営住宅条例)に基づく、市営住宅の今後のあり方について

問 終戦直後の420万戸と推定される住宅不足は、大量供給を前提とした緊急課題政策とされた。その後、高度経済成長などの住宅を取り巻く状況の変化を踏まえ、住宅困窮者への住宅政策として、憲法第25条の理念である生存権の実現のため、公営住宅法が成立し、各種整備が行われた。本市の市営住宅は320戸から現在230戸

まで減少している。これは集約事業の結果であるが、十数年、入居募集せずに集約することは容易であり、誰にでも行える。本来、段階的に民間住宅を借り上げて市営住宅として位置付け、集約するべきである。今後、公営住宅供給目標量設定支援プログラムの計画に基づき、募集を再開するとともに、総合計画に位置付ける必要があると考えるがどうか。

答 今後、公営住宅供給目標量設定支援プログラムの内容を確認しながら、本市の住宅供給目標など



渋滞緩和のため、右折矢印信号機の設置を(写真はテクノパーク入口交差点)

二 公明党 山下 博己

一 ごみの減量対策について
問 本市では、ごみの減量対策が重要課題であるが、葉山町は、生ごみを土のバクテリアで分解させる生ごみ処理機キエーロを普及させることで、ごみ減量に大きな成果を上げていく。本市でもキエーロを活用することで、大きな効果が期待できると思うがどうか。

答 キエーロの効果や評価が高いことは承知している。今後、キエーロの供給体制を含め民間団体との連携も視野に入れて研究したい。

要望 生ごみは燃やさず、資源として土に戻す循環型社会の構築につなげるため、補助金の増額など、積極的な普及活動に努めてほしい。

二 空き地の適正管理について
問 放置された空き地に草が生いおり、本市でも条例を制定すべきと考えるが、どうか。

答 市内4駅の駅前広場に灰皿を設置し、吸い殻のポイ捨ては減少したが、条例制定については受動喫煙対策の要素を含め、近隣自治体の状況を調査していきたい。

要望 秦野たばこ祭などイベント時における分煙の徹底とマナー向上の啓発に努めるとともに、5月31日の世界禁煙デーに合わせて、禁煙・受動喫煙防止の普及啓発イベントを開催してほしい。



生ごみ処理機「キエーロ」の普及促進がごみ減量の決め手

せることで、ごみ減量に大きな成果を上げていく。本市でもキエーロを活用することで、大きな効果が期待できると思うがどうか。

答 キエーロの効果や評価が高いことは承知している。今後、キエーロの供給体制を含め民間団体との連携も視野に入れて研究したい。

要望 生ごみは燃やさず、資源として土に戻す循環型社会の構築につなげるため、補助金の増額など、積極的な普及活動に努めてほしい。

二 空き地の適正管理について
問 放置された空き地に草が生いおり、本市でも条例を制定すべきと考えるが、どうか。

答 市内4駅の駅前広場に灰皿を設置し、吸い殻のポイ捨ては減少したが、条例制定については受動喫煙対策の要素を含め、近隣自治体の状況を調査していきたい。

要望 秦野たばこ祭などイベント時における分煙の徹底とマナー向上の啓発に努めるとともに、5月31日の世界禁煙デーに合わせて、禁煙・受動喫煙防止の普及啓発イベントを開催してほしい。



住宅確保要配慮者への支援を(写真は市営入船住宅)

について検討していく。また、住宅セーフティネット法に基づく住宅確保要配慮者のための市営住宅整備も課題となると認識している。次期総合計画では、これらが策定の課題となると考えている。

要望 次期総合計画の策定においては、住宅確保要配慮者などさまざまな課題や問題を整理しながら、集約事業を進めてもらいたい。



ごみ減量に大きな効果を発揮するキエーロの導入を(写真は「バクテリアdeキエーロ」)

茂り、大量の害虫が発生するなど、近隣住民からの苦情が増加傾向にあるが、状況と対応はどうか。

答 土地所有者への通知などで解決できたものもあるが、未確認のものも、現在43件となっている。

問 今までに悪質なものに対し、ごみの散乱防止等に関する条例に基づき、市長による除去命令を行った事例はあるか。

答 通知や口頭による指導はあるが、除去命令をした事例はない。今後、条例に基づいた体制強化をする必要がある。特に未確認の43件は、条例に従い、早急に対応すべきと考えるがどうか。

答 43件は現状を確認する。今後、より効果的な運用を検討したい。